



■ 発信元
SPARCS事務局
■ 発行責任者
院長 吉田茂昭
■ 連絡先
青森県立中央病院
経営企画室
☎017-726-8402

Vol. 4
2013年 5月13日発行

SPARCS報告会が開催されました!!

平成 25 年 4 月 17 日にがん臨床研究事業:「がん疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究(略称 SPARCS※1)」の報告会が開催され、院内外・メディアを含むおよそ 70 名の皆様方にご出席頂きました。

本研究は独立行政法人国立がん研究センター中央病院と青森県立中央病院が厚生労働省からの助成を受け、2012 年 2 月～2013 年 3 月までに青森県立中央病院に入院されたがん患者延 3097 人を対象に、治療成績を施設単位で客観的に評価する統一的指標としての「除痛率」を算定、算出方法の確立を目的に、痛みの聞き取り調査を行ってきました。

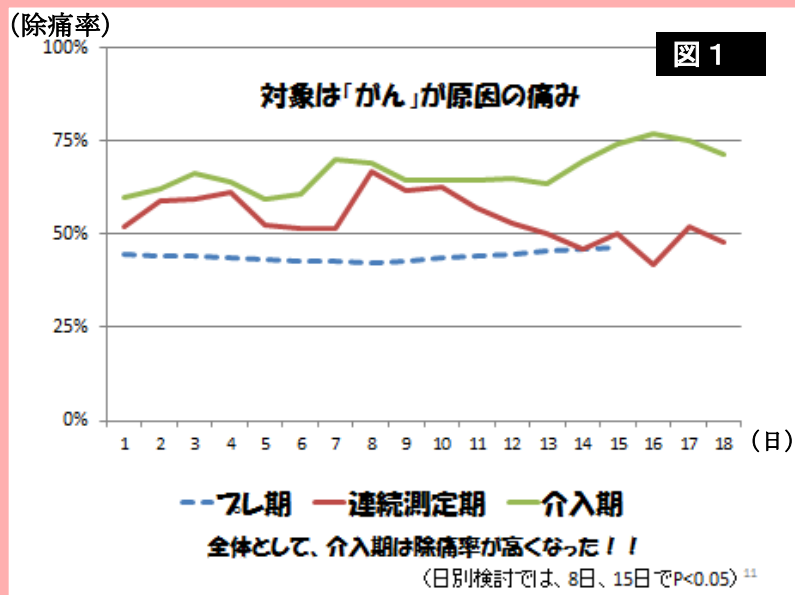
調査期間は、プレ期、連続測定期、教育啓発期に分けられ、プレ期では入院初日・8 日目・15 日目に聞き取り調査を実施し、連続測定期に入った 7 月からは毎日調査を実施しました。教育啓発期にあたる 10 月以降は、毎日の聞き取り調査に併せて医師や看護師を対象に疼痛治療に関する教育啓発を行っております。

報告会では、痛みの聞き取り方法や医療従事者への教育啓発を行なった結果、痛みが緩和された患者の割合を示す「除痛率」が改善し、調査開始から医療用麻薬消費量が増加するなどが報告され、医師・看護師の痛みに対する関心・知識の向上、疼痛治療に対する認識を深めることの重要性が明らかになりました。

本研究にご尽力頂いた皆様方には厚くお礼申し上げますとともに、報告会の概要についてお知らせいたします。

※1 SPARCS … Special Project for Awareness and Relief of Cancer Symptoms

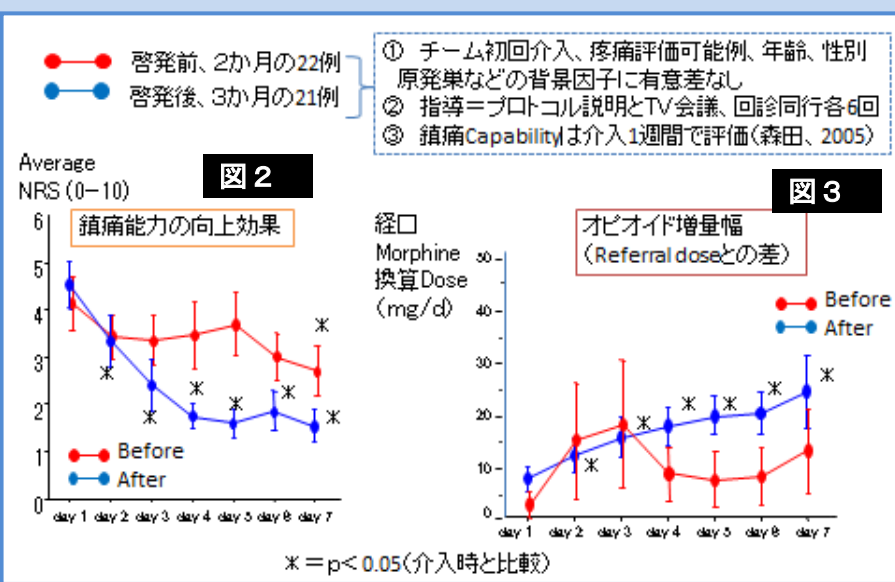
図 1 入院後日数と除痛率の推移



がんが原因による除痛率の推移をプレ期(入院初日・8 日目・15 日目に痛みの状態を観察する)、連続測定期(毎日痛みの状態を観察する)、教育啓発期(医療者を対象に痛みに関する専門的な教育啓発を行う)の3つの期間別に調査しました。その結果、教育啓発期の除痛率がどの期間よりも高くなっており、特に入院して 14 日目以降の患者さんの除痛率は 75%と連続測定期よりもはるかに除痛されていることが明らかになっております。

図 2 教育啓発前後の緩和ケアチームの除痛成績

図 3 教育啓発前後の緩和ケアチームのオピオイド処方量



基本的治療の再検討を用いてプロセスを評価した結果、教育介入後は緩和ケアチームで処方されるオピオイドが有意に増量(p<0.05)、また患者の疼痛強度も緩和ケアチーム介入 2 日目から有意に低下(p<0.05)していることが観察されました。

過去に緩和ケアチームの治療成績を外部講師による推奨で改善させた報告はなく、2013 年 6 月にプラハで開催される EAPC(13th World congress of the European Association for Palliative Care)で発表する予定です。

図 4 SCOPE 調査とフィードバック効果

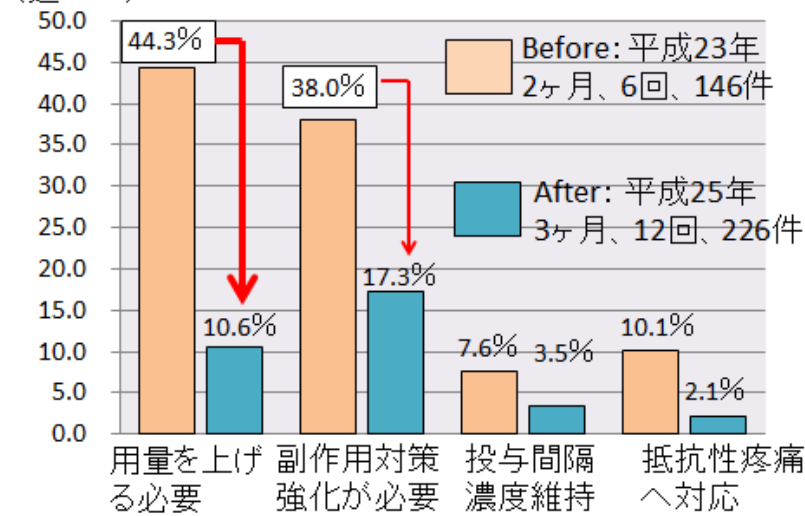


図 4 SCOPE 調査におけるフィードバックの効果

がん性疼痛指導管理料を算定している患者を対象に、薬剤師と外部指導医が WHO ガイドラインから抽出した ALPHA プロトコルを用いて電子カルテに処方照会を行ってきました。電子カルテ記載による薬剤師のフィードバックは 2013 年 1 月 10 日から開始しましたが、フィードバック前に比べるとオピオイドの過少ドーズや副作用対策などすべての項目において改善が認められております。さらに、SCOPE で問題を指摘する割合が著しく減少されました。これはがん診療センターの先生方の疼痛への対応がすばらしく、短期間のうちに改善されていることがあらわれています。皆様方の臨床での疼痛治療への積極的な取り組みに感謝申し上げます。

※SCOPE…Supporting Care for Opioids with Pharmacist Engagement

図 5 教育啓発による麻薬消費量の増加

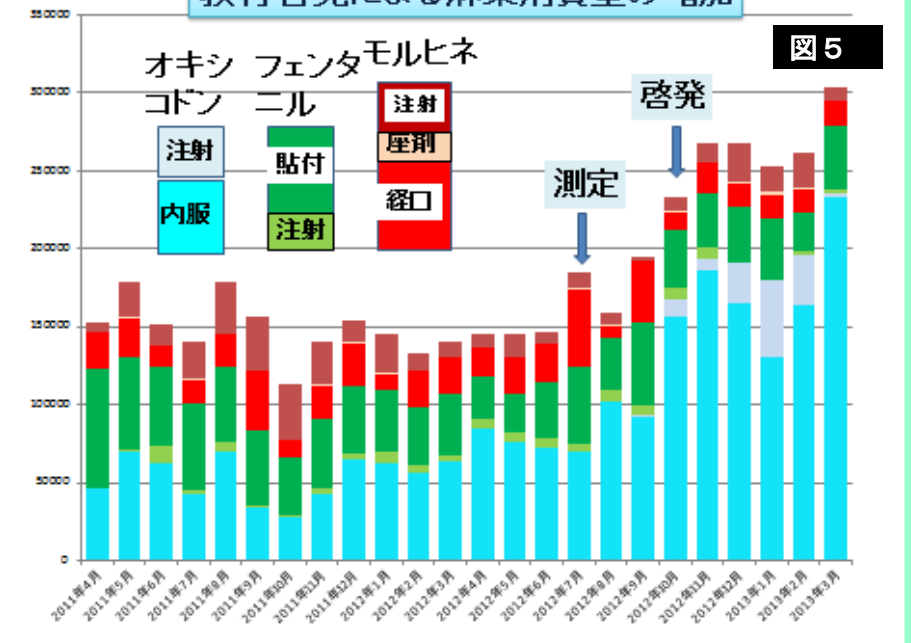


図 5 院内の麻薬消費量の推移

図 5 は、2011 年 4 月から 2013 年 3 月までの院内の麻薬消費量の推移を示しています。毎日痛みを評価する連続測定期が 2012 年 7 月に開始して以降、麻薬消費量が増加しており、2012 年 10 月の医療者への教育啓発期には院内の麻薬消費量が 250000~300000 mg と過去最高を記録しています。図 4 に示すようにオピオイドの過少ドーズの患者が減少しており、痛みのある患者への積極的な疼痛治療が行われていることが推察されます。